

令和5年度まちづくりを考える懇談会

「まちづくりを考える懇談会」は中標津町をより良く、住み続けたいまちにするため「こうなればいいな」「こんなことしたいな」と思うことを、町長と直接話し合う場として毎年開催しています。

令和5年度の「まちづくりを考える懇談会」は下記の3回開催し、ファシリテーターが懇談会を進行しました。

日 時	場 所
11月 8日（水）13時30分	総合文化会館 視聴覚室
11月24日（金）19時30分	総合文化会館 第2研修室
12月 5日（火）19時30分	計根別交流センター

●ファシリテーターが進行した懇談会の流れ

ファシリテーターが懇談会が進行することで、みなさんのご意見やご要望にその場で町長が回答する一問一答方式ではなく、町民のみなさん同士も含めてまちづくりについて「話し合う」懇談会としました。

参加者のみなさんから自由に、行政に対するご意見やご要望を承り、その意見に対してほかの参加者の考えを聞くことにより、共感があったり、異なる意見があったり、解決策を考えたり、みなさんで話し合うことができました。

流れ1. オリエンテーション

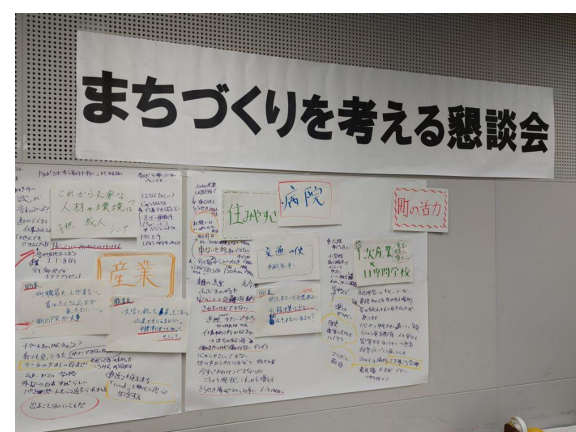
開会 ～ ファシリテーター紹介 ～ ファシリテーター自己紹介（グラフィッカー紹介）
～懇談会の流れを説明 ～ 町長あいさつ

ファシリテーター：会議などの場において話し合いを促進する進行役

グラフィッカー：話し合いを文字や絵で描いて見える化することで内容をわかりやすく表現する人

流れ2. ワークショップ

ワークショップでは、町長があいさつで触れたテーマも踏まえながら、まずは参加者のみなさんが「今日一番話したいこと」を紙に書いてもらいました。その後、1人ずつ紙に書いた意見を発表しながら、関連する意見のある人にも発言してもらい、それらに対し町長や教育長からお答えさせていただきました。



みなさんからの意見はグラフィッカーにより文字として見える化され、前方に貼り出しながら懇談会を行いました。

ほかにも行政への意見だけでなく、自分や自分の周りの状況など自由に話をさせていただきました。最後に懇談会で話し合った内容を振り返り、町長、教育長からまとめを述べて閉会となりました。

●懇談会の内容

懇談会の意見交換の内容について、その概要をまとめました。また、町長や教育長がその場で回答しきれなかったご意見等については、担当部署からの回答も追加しています。

・総合文化会館

令和5年11月8日（水）13:30～ 参加者7名

【町参加者】町長・副町長・教育長・総務部長・政策推進課長・政策推進課主幹
・企画調整係

【農業について】

●私は50年ほど前に中標津町に入植したが、その頃から酪農の規模拡大が始まっていた。規模拡大の路線になると、小さい農家がどんどん離農し、農村人口が減少した。農村人口の減少は中標津町にとって危機だと思う。もっと農村人口を増やさなければならないのでは？

●小さな農家には国からの補助が出ないと聞いたことがあるので、そのあたりも影響していると思う。

●酪農ヘルパーの人手が足りていない。ヘルパーにお願いしたいと思っても、繁忙期は1年前から予約をしなければならない状況。

●乳価の買取り金額が上がりとてもありがたいが、消費者の購入価格も目に見えて上がっているので、消費者が買いやすくなる補助があれば良いと思う。

町長

農家の規模が大きくなると、どうしてもヘルパーさんたちの力が必要になってきますが、ヘルパー人材については足りていないと感じています。酪農業も含め、どの職種でも外国人材の活躍が今後必要になってくると思います。小規模酪農家も大切ですが、食料自給率などを考えるとある程度大規模化した農家も大切だと思っています。

また、乳製品の購入価格についてですが、今は所得の上昇が物価上昇に追いついていないので価格が高いと感じますが、所得が物価に追いつき、消費者として今の価格で問題ないとなるのが一番良いと思っています。

【子育てについて】

- 私は幼児教育に携わっているが、今後の人口減少・少子高齢化の中で、将来は町内にどの程度の幼児施設が必要となるのだろうか？今の数で多すぎないだろうか？
- 町内の認定こども園はどこも老朽化している。町予算の関係もあると思うが、子育て世帯が安心して子育てができる環境を町全体で考えていかなければならないと思う。
- 認定こども園についてだが、仕事をしていない人が1号、仕事している人が2号と区分があり、それぞれ定員がある。もともと仕事をしていなかった1号の人が、仕事を始めたので2号になりたいと思っても、2号が定員に達しているため2号になれない場合がある。どうにか解消できないか？
- 子ども誰でも通園制度について、どこを受け皿にするのかしっかり考えてほしい。
- 保育園と認定こども園と一緒に話をできるような機会がない。町全体でこれからの子育て施設について話し合う場があれば良いと思う。
- 私は中標津町に移住してきた者だが、中標津町は安全で、おおらかで、とても良い子育て環境だと思っている。一方で、PRが足りていない気がする。もっと積極的にテレビ等でPRしていれば良いのでは？また、テレビで紹介される際には、町民にもアピールすることが大切。

教育長

子育て環境が良いと言っていることはとても嬉しいことです。町内に住んでいる方はあまり気づいていないのですが、都会から比べると中標津町の子育て環境はとても良いと思います。今年生まれる子どもが、多く見積もっても120人程度と言われています。施設の規模はしっかり考えていかなければならないと思います。

副町長

今後の子育て施策・施設についてを保育園と認定こども園が共に議論できる場を子ども子育て会議などを活用して開催できるよう担当に伝えさせていただきます。

施設整備の関係ですが、1園あたり約6億円ほどかかるだろうと言われており、費用については、国1/2、町と園が1/4の負担になると思います。町の予算の関係もあり、更新などは順番に行っていただきたいと思っていますので、今後も色々ご意見をいただければと思います。

1・2号の枠の関係ですが、年度途中でどうにかできないかと議論したことがありますが、保育士が足りない・幼稚園の先生が足りない等の問題があります。町としてそのあたりの対策を考えていかなければならないと思っています。

※子育て支援課回答※

町では、今年度、保育園と幼稚園、認定こども園の関係者で構成される「中標津町幼保連携協議会」を立ち上げ、職員のスキルアップ及び保育の質の向上を図るために情報交換や情報共有を行うとともに、令和6年度より各園の保育状況等を見学する交流会を予定しております。

今後、交流や職員研修等を行い、職員のスキルアップ及び町全体の保育の質の向上を進めます。

【人口減少について】

- これから中標津町も人口が減っていくという中で、町にとって必要な人材や環境はどう考えているか？
- 働き方も多様になっているため、中標津町に居てもこんなことができるとPRすることが大切かと思う。
- 人を集めるには、教育が充実していることが重要だと思う。
- 来年度開校予定のIT専門学校と協力していくことが重要だと思う。

町長

特定の人材ではなく、もっと町の魅力をPRすることで、様々な人材が中標津町に集まってくるようにしたいと考えています。

教育長

大学等で一度出て行った方に戻ってきてもらえるような教育をしたいと思っていますが、そのためには、大学卒業後に就職できる企業など受け皿が中標津町内に必要になると思っています。一度町を離れ、この町の良さを改めて感じて戻ってきてもらえるようになれば。

【介護保険制度について（透析について）】

●父が別海町に住んでいて透析を受けているが、別海町には透析室がないため中標津町に通わざるを得なくて、家族で送迎している。介護保険制度の利用も検討したが、別海町から利用できないと言われており、どうしても家族が支援するしかない状況。仕事をやめて父の介護をし、働きたくても働けない状況。中標津町で透析を受けている患者が100人程度いて、15人程度が家族で送迎していると聞いた。別海町と色々話をしたことがあるが、解決策はないと言われた。札幌の施設に入るのを勧められた。

副町長

町を跨いだ介護保険の利用は制度的に難しいようです。管内で透析室があるのは中標津町だけなので、このような問題を抱える近隣市町村の住民はこれからも増える可能性があり、非常に難しい問題かと思います。

・総合文化会館

令和 5 年 11 月 24 日（金）19:30～ 参加者 4 名

【町参加者】町長・副町長・教育長・総務部長・政策推進課長・政策推進課主幹
・企画調整係

【農業について】

- 10 年・15 年に 1 度、今回のようになかなか難しい時期がある。本業の酪農をうまく維持しながら新しいものを取り入れたいと思っている。皆さんは中標津産のどんなものがあれば良いと思うか？
- 地球温暖化の影響により、この地域に合う作物がこれから変わってくるのではないと思う。
- 今年は寒暖差や雨の影響によりじゃがいもよりもサツマイモの方が出来が良かったようだ。

町長

生乳生産調整についてですが、国内需要が減っているのであれば国外に輸出できないだろうかと思うことがあります。生乳生産量の調整と一言で言っても、1 頭の牛から絞る量は変えられないので、牛を減らさざるを得なくなります。牛を減らしますと、生産調整が終わった時に、増やしたくてもすぐには増やせません。そこが大きな問題だと思っています。

中標津町で畑作を行っているのは、わずか 20 戸程度と聞いております。土地の広さを生かした酪農だけではない農業の転換期に差し掛かっているのかもしれない。

【外国人について】

- 九州の熊本市で、自治基本条例の中に「外国人も市民とする」と条文に入れようとしたところ市民から反対があり断念したようだ。中標津町の自治基本条例は、外国人も町民と読み取れる条例となっている。中標津町の住民でも、外国人が増えることに不安を抱いている人がいる。このまま多文化共生施策を進めるのであれば、自治基本条例の条文見直しを考えてほしい。
- 外国人の参政権について、中標津町がどういう状況になっているかわからないが、中標津町以外の自治体では、町内で活動していると町政に参画できる状況になっているので、そのあたりも見直してほしい。
- 飲食店を訪れると外国人の方が働いているのを見かけるが、しっかり挨拶もしてくれるし、頑張ってるんだなと思い、私は不安はない。

町長

人口減少を考えていきますと、これからは外国人の方にも活躍していただかなければ人手が足りなくなるのだと思います。しかし、日本人と外国人の人口比が大きく変わるほど外国人の人数が増えるとは思っていません。

宗教の違いや文化の違いがありますので、その違いをお互いが理解し合っていくことが大切だと思います。この施策もまだ始まったばかりですので、これから試行錯誤しながら、地域を盛り上げる一助になればと思っています。

教育長

不安を抱いている気持ちもわかりますが、前向きに捉えて、今住んでいる日本人の住民もこれから入ってくる外国人の住民も、みんなお互いに理解し合えるように努力していくことが大切だと思います。

【教育について】

●部活動についてですが、全国的に合同チームでやる流れになってきていると思うが、今後のスケジュール感や考え等があれば教えてほしい。現在も、各学校単独の部活と人数の関係から合同で実施している部活があると思うが、合同でチームを組むと中体連の時に困ってしまうなど、色々な問題があると聞いている。誰がどうやって声を上げればいいのかもわからない状況。

●今後の学校の統廃合について、早期に町民に教えてほしいと思います。それによって、家を買う場所が変わる人も出てくる。

教育長

文部科学省では、令和7年度中に中学校の部活動の地域移行を完了するよう示していますが、非常に難しいと思っています。合同チームの作り方もある程度ルールが出来ていまして、まずは町内の近隣校で合同チームを作り、それが難しければ近隣市町村で作り、それも難しければ管内で作ります。また、個人種目については、以前までは合同チームを作れませんでした。今は作れるようになりました。来年度以降は、地域移行に関してメインに携わってもらえる人材を確保して、1歩でも2歩でも先に進められたらと考えています。

統廃合の関係ですが、10年後には中標津小学校と丸山小学校で合わせて1学年2学級程度になる可能性が高まってきています。そうなると、統廃合の可能性が出てきます。早い時期に今後の学校体制についてお示ししていきたいと思っています。

【子育て支援について】

- 子育て世帯への医療費無償化について、中標津町でも必要ではないかと思います。他の町では実施しているので、中標津町でも可能な範囲で実施してほしい。標津町では、出産時の祝い金を出している。そこまでは無理でも、なにか支援を実施してほしい。また、母子家庭の手当をもらいながら、町営住宅で男性と同棲しているような話も聞くので、そのあたりの調査もしっかり実施してほしい。
- 子育て世帯への支援については、もう一人産もうかと悩む際の判断の一つにもなるので、ぜひ実施していただきたい。

町長

祝い金などは、あった方が良いのは承知しています。予算の関係もありますが、中標津町としては、児童館や保育園をしっかりと整備することで、働いている方が子育てしやすい環境を整備し、家庭でしっかり収入を上げてもらえるようなことに重点を置いています。

教育長

奨学金について、中標津町に戻ってきてもらうなど一定の条件はありますが、返還不要の奨学金もありますので、そのあたりに活用いただければと思います。

【発言できなかった意見（紙で提出）】

- 外国人労働者、留学生の呼び込みから、「中国」を外していただきたい。中国は過去にチベット、ウイグルに大量移民を流入させ、乗っ取り、現在も人権問題が続く。現在の北海道、中標津町と以前のチベット、ウイグルは非常に似ていると思われる。
- 多文化共生政策はいずれ限界を迎えると予想。中標津町は必要最低限の受け入れを目指すのか、それともニセコ町のような大きく人口比が変わる事を目指しているのか町民に示してほしい。

※経済振興課回答※

本町において外国人招致活動は、人口減少による労働力の確保など中標津町の将来に向けて事業を展開しております。外国人労働者や留学生の受け入れにおいて、国際情勢や経済情勢の変化などを勘案し幅広いチャンネルを持つことが必要であるため、様々な国に呼びかけをしておりますが、事業推進するうえでリサーチした結果、東南アジア諸国を優先すべき招致国として、本事業では中国は対象にしておりません。

また、多文化共生事業は中標津町に在住する外国人と日本人が一緒に生活していくため、互いの文化の違いを理解し住みよい町にするための事業であり、人口比率を大きく変化させることを目指しているわけではないことをご理解ください。

●人口減少と地域コミュニティをどう維持するか。

※生活課回答※

非常に難しい課題であると考えています。人口減少もさることながら、少子高齢化社会、インターネットやA I の時代でもあります。加えて、コロナ禍を経験し、昔のような隣近所のお付き合いや、会合、イベント行事等も無くなり、地域コミュニティは衰退するばかりです。

このような中、本町としても全町内会連合会と連携して、会員の維持・加入に向けた各種事業を展開しています。大きく有効な手段、とは言い難い側面もありますが、出来る事から一つずつ取り組みを進めており、現在、会員に対するメリットと町内商店や事業所の利用拡大を目指し、「町内会会員カード」事業を展開中です。また、加入促進を目的とした、「のぼり」を作成しており、役場、支所、しるべつとなど、様々な場所に掲示し、意識啓発を予定しています。

さらに、有識者からのアドバイスの検討や、成功事例の研究に取り組む予定です。町内会組織は、「任意団体」でありますので、お住いの地区の町内会組織に加入するか否かは、強制ではなく、任意である難しさもありますが、役場の各部署と各町内会組織の関わりや連携も再評価しながら、引き続き、地域コミュニティの維持に向けた取り組みを進めて行く必要があると考えています。

そのためにも、行政だけではなく、もっと広い視点や関係者で「人口減少時代の地域コミュニティの活性化」というテーマに対して、関心を持ち、どうあるべきか、様々な議論も必要と感じています。

・計根別交流センター

令和5年12月5日（火）19:30～ 参加者 15名

【町参加者】町長・副町長・教育長・総務部長・政策推進課長・政策推進課主幹
・企画調整係

【物価高騰対策について】

●様々な自治体で物価高騰対策を実施していますが、中標津町でもプレミアム商品券や学校給食費の無償化に取り組んだ方が良いと思う。

【住環境について】

- 計根別の外灯は暗く電球も切れていたり、防犯上良くない。
- LED化+外灯の数を増やしてもらえたら子どもたちが安心できると思う。
- 今の若い人はきれいな住宅がないとなかなか住もうと思わない。空いている計根別公住を活用して、子育て世帯が低廉な家賃できれいな住宅に住めるような方法を実施してほしい。

【町内会について】

- 先日、町内会加入率が全道で中標津町が一番低いと目にした。一方で、加入率が高い自治体があるのも事実だと思うので、その手法等をもっとPRしては？
- 札幌市は、町内会に加入していない人はゴミを集めないようで、とても町内会加入率が高いと聞いた。札幌市でそういったことが出来るのであれば、中標津町も同じことができるのでは。
- 町内会カードは、どの程度加入のメリットとなれたか？とく蔵くんカードがあるので、町内会カードを持っているとポイント2倍など、コラボしてなにかできないか。
- 町内会カードは1家庭に1枚しかないのが使いづらい。また、使える店舗一覧を無くしてしまうと、どこで使えるかわからなくなるのも使われづらい理由だと思う。
- 全町連のHPに使える店舗一覧は掲載はされているが、もっと良い方法はないだろうか。
- ゴミステーションについて、計根別は1日かけて収集していたものが、ゴミステーション化されたことで、半日で収集できるようになったと聞いた。中標津町全体で取り組むべきだと思うし、取り組んでいる町内会にゴミ袋を配るなどメリットを持たせ、メリハリをつけなければ広がっていかないと思う。
- ステーション化を行っている町内会にごみ袋を配ることにとても賛成で、中標津町の町内会加入率が低い現状は、町内会に加入するメリットが感じられないからという意見が多いことから、そういった部分で町内会加入のメリットを示せば良いと思う。

【バイオマスについて】

●中標津町はバイオマス都市構想の町なので、生ごみをしっかり分別して、バイオマスのなプラントで自然に優しい、経費も削減できるような方法が必要ではないかと思う。

町長

町内会加入率について、札幌市は町内会で排雪を頼んでいるので、町内会に加入するメリットが明確でわかりやすいと思います。加入率が低いことの問題は、災害の時に助け合うことの醸成がないことだと思います。その中で、ゴミステーションをうまく活用し、町内会の意義を理解してもらいながら、加入促進につなげていくことが良いのだろうと思います。

ゴミ処理についてですが、処分費に7億～8億程度かかっており、大きな課題だと思っています。その中で、中標津町は業務用のゴミが多いため、その中の生ごみをバイオマス化できないか色々と考えていきたいと思っています。

住宅について、計根別の公営住宅に少し空きがありますので、そこを整備して貸すという方向性は可能ではあると思います。外灯の暗いところは言っていただければ調べます。

【公園について】

●計根別に子どもが安心して遊べる遊具付きの公園がない。維持管理については、地元も協力しながら町と一緒に進めていければと考えているので、検討してほしい。

●学校が終わると校庭に残ってはいけなないので、子どもたちは家に帰ってゲーム等をしている。まずは外で遊べる環境を作ってあげることが重要ではないかと思う。公園ができることで、子ども達が遊ぶのはもちろんだが、高齢者が散歩の休憩で立ち寄ったり、農業高校の生徒がバスを待つ間に休憩スペースとして活用するなど、そういった世代間交流が可能となる。

教育長

公園について、あった方が良いのは間違いないのですが、造っても全然使われないでは意味がありません。実際に、市街地の公園はほとんど使われていません。整備する際には子ども達や地域の方に使われるような方法を地域と町と一緒に考えていく必要があるだろうと思います。

●えみふるの近くに遊具が整備されていれば、児童館の利用者や子ども達が利用できるの、良いのでは？

●えみふるに行っても外で遊ぶ環境がないので、今の話を聞いていて、近くに遊具があれば良いなと思った。計根別は中標津の町と違い、色々な施設が充実しているわけではないので、私が子どもの頃は外で遊ぶことが多かった。中標津と計根別は少し違うのかなと思う。その地域に合ったまちづくりを考えていかなければならないのかなと。

町長

子どもたちが何を望んでいるのか確認・把握する必要があると思いました。計根別は幼稚園がかなり古い建物になってきていますので、年数的なことははっきり言えませんが、建替える際は、そういった児童館や公園を含めた議論は必要だと思っています。

世代を超えた交流については、かぼちゃランタンがとても良い取り組みだと思っています。あのような取り組みが世代を超えた交流につながっていくと思っています。

【計根別の活性化について】

- 計根別に他から人を呼べる方法はないかと考えていて、計根別の中で働ける場所を作ることが、移住につながるのではないかなと思う。産業として酪農はあるが、計根別の町から通うのはなかなか難しいと思うので、なにか町の中で働ける場所があれば。
- せっかく酪農の町なので、カフェやアイス屋さんはどうか？
- 仕事の有無に関わらず、今の人は今の計根別に住もうと思わないと思う。北見市は、ネット環境を整備したコワーキングスペースを整備している。そういった仕事環境の整備、カフェや住環境の整備などが計根別にも必要では。
- 標津町の川北に移住されてきた方で、川北にコワーキングスペースを開設している。他にも、空き家情報をネットで情報公開し、移住者を集めたりしている。今は都会でなければ仕事ができない時代ではないと思うし、町外から計根別学園に通わせたいから引っ越ししたいと問い合わせを受けることもあるので、まだまだ移住者を増やしていけるのではないかなと思う。
- 年配の方々や子どもが学校に行っている間の奥さんたちが働けるような職場環境があれば、もっと移住者が増えるのでは。

教育長

日本中で少子化・過疎化が進んでいます。その中で、学校教育でなにを進めたら良いのか考えた時に、学力をつけること・体力をつけることはもちろん大事ですが、自分が住んでいる場所がどれだけすばらしい場所かを再認識させ、自分が生まれ育った地域に戻ってくるような教育が大事だと思っています。しかし、そこまで出来ても、働く場所・活躍できる場所がなければ、Uターンに結びつかないと思っています。

- もっとPRが必要だと思っています。中標津町で働く場所がないと言われるが、それはPRが足りていないだけで、知らないだけかもしれない。
- まちづくりを考える懇談会は、計根別地区で年1回だが、町長や教育長がいる中で、良

い意見を持っているのになかなか意見を言えない方がいると思う。こういった場が年1回が良いのかと疑問に思うことがある。計根別地域だけで年3回程度、町長等いない場を設けられれば、もっともっと良い話し合いになると思うし、もっともっと地域が盛り上がってくると思う。

【発言できなかった意見（紙で提出）】

●モアン山付近の交通マナーの整理をしてほしい。

※経済振興課回答※

モアン山の「牛」を撮影するために、自動車が減速または駐停車することで交通事故の危険性があるという意味合いでの「交通マナーの整理」と理解いたします。

警察署や道路管理者に情報共有するとともに、観光スポットとして紹介するだけでなく、事故の危険性についても注意喚起してまいります。

●町長が一番力を入れていることは？

※政策推進課回答※

基本となる考え方は、人口が減少していく中でも、住みやすさを追求したバランスの良いまちづくりであります。

しかし当町で生まれる子どもの人数は、20年前の半分ほどに減っており、令和5年に生まれた人数は110人となっています。

子供の減少の先には地域の担い手の減少があり、働き手の問題を見据えた対策のひとつとして、現在、外国人も含めた人材確保に向けて取り組みを進めております。

また、中標津は周辺地域を含む1次産業の安定した生産基盤から生み出される利益や資源を、地域内で活用、消費する場所として、商業面で高いポテンシャルを有しており、この商業力によって地域の発展や住民の生活が向上し支えられてきましたが、人口減少はこれらの産業の労働力不足だけではなく消費そのものが減少していくため、外から人を呼び込み消費してもらう。交流人口の拡大も重要な施策と考えています。

人口減少に伴う様々な課題に対処するためには、交通や商業、医療、介護、福祉、子育てなど、様々な施策をトータルでバランスよく進めて行くことも必要であり、中標津町の持っているポテンシャル、人を集める力、商業力、空港の利用など、一つ一つを磨き上げ、バランスの良いまち、「住みやすさNo.1」のまちを目指しまちづくりを進めてまいります。

●これからの冬の雪が心配。朝、業者さんに除雪していただくのですが、除雪をしたあとに除雪車が来て、固い雪を置いていく。だんだん年を取り、その雪を除雪するのが大変で、困っています。何か良い方法はありませんか？

※管理課回答※

除雪作業は、多くの人が利用する道路を通勤や通学の時間帯までに、深夜から早朝の限られた時間で広範囲を行うため、午前3時に除雪する道路もあれば、午前6時過ぎに除雪する道路もあり、各ご家庭の雪かきの状況に合わせた作業を行うことはできないことにご理解願います。

また、限られた時間内での作業となることから、雪を道路の左右にかき分ける方式をとっているため、かき分けた雪がご家庭の出入り口前に寄せられますが、その雪の処理は各ご家庭にお願いしております。その際、町の除雪のタイミングが各ご家庭で除雪いただいた後になることもあり、ご苦勞をかけてしまう場合もありますが、町民の皆様の通勤・通学に間に合わせるためには、ご協力いただくことも必要となりますので、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。